



ランダウの幻視星
石原藤夫
徳間書店
(12/31刊・¥1200)

直径六十光年に広がる光世紀宇宙——光速伸張航法で飛翔する、光世紀バトロール艦「オレーム二世号」——乗り組むは、邇及型再生クローン、ケブラー、シューベルト、ナポレオンら六名の隊員たち。

「古い皮袋に新しい酒を盛る」という表現があるけれど、この場合はむしろその逆、伝統的な宇宙バトロール物を、著者ならではの「光世紀」へと押し展げた、連作集である。

バトロール物は、有名なものが初期に書き尽され、今では、ストレートな作品としては、あまり流行らない分野といえるだろう。舞台の単調さが災いして、見るべきものは実に少なくなっている。現在あるのは、ユーモラスな人物を配した、いわば変化球型の処理をされたものが多い。しかし、光世紀バトロールでは、まず舞台が現実の宇宙、それも詳細なデータの加えられた、奥行たっぷりの宇宙だ。人物はユニーク。敵方も、不気味なバイ三乗星人、シグマ星人、謎の古代文明と盛り沢山。ここまで道具が整えば、もう言うことはない。後は、書き継がれるだけで、いくらでも舞台は広がっていく。大いに期待できるシリーズだ。